

## 山陰労災病院の基本理念

私たちは、信頼される・優しい・効率の良い医療を実践し、地域の皆様と勤労者の健康を守ります。

「信頼・優しさ・効率」

## スタートした、がん地域連携パス ～「多死社会」を乗り切る足掛かりに～

山陰労災病院第3 消化器内科部長  
鳥取県西部地区がん地域連携パス推進委員会 神戸 貴雅

### ～「高齢化社会」から「多死社会」へ～

我が国の人口の少子高齢化が問題となってから、相当の年月が経ちました。そして我々は今、団塊の世代が死亡する可能性の高い年齢に一斉に達し、1年に約130万人が死亡するという「多死社会」の到来を迎えています。これは鳥取・島根両県を合わせた人口が、わずか1年で失われているということであり、国民の実感を越えた驚くべき数字と言えます。そのうち、がんで亡くなっている人は約30%に昇っています。

このまま少子化が続き、多死社会が進んだ場合、2025年には現在の1倍の患者が発生し、更に最終局面と言える団塊ジュニア世代が高齢化を迎える2038年には、1年に大都市一個分である約200万人の人口減少が起こると予想されています。

そしてその頃、がんで亡くなる人は、何と75%にも昇るだろうと考えられています。

### ～鳥取県は既に「多死社会」～

鳥取県庁は様々なデータ分析により、私たちの住む鳥取県も既に「多死社会」に突入していることを把握しています。

2011年には約6900人が死亡（がん死は1800人）していますが、2035年には約8000人が死亡（がん死は5500人）し、とりわけ郡部の独居老人の孤独死が大きな社会問題化するであろうとされています。

現在鳥取県の死亡者のうち、およそ75%の人が病院で亡くなり、10%の人が診療所や施設で亡くなり、在宅で看取られる人はわずか10%に過ぎません。

もしこのまま多死社会が進めば、病院で死亡する患者が更に増加し、既存の疲弊した病院群からなる地域医療体制ではこれらの患者を抱えきれないことがはつきりしています。とりわけがんで亡くなる患者がこれだけ急速に増加すると、それらの患者をどのような形で診療し看取るのが良いのか、大きな問題となります。

### ～病院から施設・在宅へ～

そこで考えられているのが、これ以上病院での看取りを増やさず、施設や自宅での看取りを増やすというものです。地域全体でがん患者やその看取りを分かち合おうという発想です。

ただしこれには様々な問題もあります。例えばかかりつけ医の先生方は、殆どがたった1人で診療されており尚且つ御高齢の先生が多いです。もし在宅で患者さんの容体が悪化した場合、一時通常の業務をストップして自宅まで往診しなければならず、その間通院患者さんに待ってもらわねばなりません。それが深夜だったら、当然翌日の業務にも差し支えが出るでしょう。全てのかかりつけ医が、安楽な看取りのスキルを持っておられるわけでもありません。また在宅診療を支える訪問看護師は、慢性的に人手不足であり、訪問看護ステーションのレベルも千差万別です。

これらの問題を何とか克服できないか、2011年頃より、鳥取県の行政担当者や保健所、西部医師会のかかりつけ医・在宅専門医・病院の専門医らが協力し、「在宅医療推進委員会」や「在宅医療連携拠点プロジェクト」などが次々と発足し、話し合いがスタートしました（図1）。そのうちのひとつが「がん地域連携パス推進委員会」です。

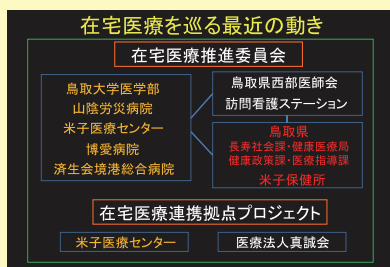


図1

### ～5大がん地域連携パス～

「がん地域連携パス推進委員会」では、地域における切れ目のないがん治療を提供するにはどうしたらよいか、真剣に話し合われました。その結果、がん治療を地域で支えるために、病院を退院した後の経過観察を、かかりつけ医と専門医とが役割分担を明確にすることで、がん患者さんに対して安心と利便性を与える

のではないかと結論に至り、その一つの形として「5大がん地域連携パス」というものが考案されました（図2）。

これは、胃癌、大腸癌、乳癌、肺癌、肝癌で治療を終えた患者さんが、安心して経過を過ごしてもらえるように、月に一度はかかりつけ医の診察と血液検査を受け、3か月に一度は病院専門医の診察と内視鏡やCTなどの専門的な検査を受けるように、あらかじめスケジュールを組むというものです。

こうすることで、かかりつけ医は治療後からがん患者さんに関する機会が増え、その性格や家庭環境などを把握することができ、仮に容体が悪くなっていった時には、病院と協力しながら在宅での看取りも視野に入れることが可能となるだろうと予想されています。

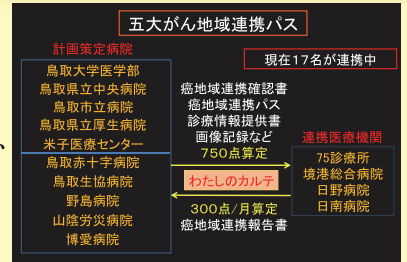


図2

### ～「私のカルテ」～

そのカギになるのが患者さんが常に持参する、「私のカルテ」です（図3、4）。これはかかりつけ医と専門医の連絡帳であり、患者さんとともに医療情報と今後のスケジュールの共有ができるという画期的な試みです。多くのがん患者さんが、「私のカルテ」を持つことによって、がん治療に対する不安を減らすことができ、より均質な医療を受けることができ、がん治療の円滑化が計られると考えられています。

現在当院では、既に12人の患者さん（肝癌7人、胃癌3人、大腸癌2人）が「私のカルテ」を持ってかかりつけ医と当院を行ったり来たりしておられます。



図3

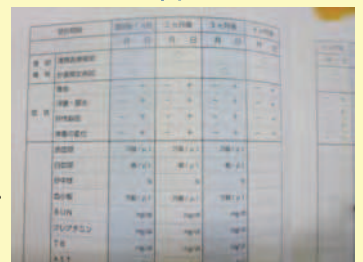


図4

### ～進化するがん地域連携～

「がん地域連携パス」はまだ始まったばかりであり、これが最高の形態だとは考えられていません。年に2回ほど見直しがあり、パスに適用される患者さんを増やしたり、保険点数などの見直しも予定されています。

冒頭にも述べましたが、すでに私たちは多死社会に足を踏み入れています。これは今までの医療の形が通用しなくなる大変な事態と言えます。これに立ち向かうには、地域全体での緊密で協力的な医療体制の構築が不可欠であり、そこにはインターネットやソーシャルメディアをふんだんに活用したインフラ整備と、様々な特色を持った医療機関を統括する優れたガバナンスが必要と考えられます。

色々の会議で多くの医療者がこの地域のことを考え、様々な角度から議論していますが、なかなか最良の答えが見つかっていないことも確かです。今までに世界中のどれも経験したことがない、「少子高齢化多死社会」を乗り切るために、今こそ多くの人の知恵と実行力が求められています。その一つの足掛かりが、「私のカルテ」であり、「がん地域連携パス」だと言えます。

\*がん地域連携パスのご相談・お申し込み等については、地域医療連携室（TEL 33-8189）にて承っておりますので、お気軽にご利用ください。

# 新任医師紹介

H24年9月～



庄盛 浩平  
病理科医師

◇生まれたところ

高知県  
高知市

◇特技・趣味など  
サッカー (小学生の頃から  
ゴールキーパー専門です)

◇自己アピール  
地域医療に貢献できるような  
病理診断を心がけます。

H24年10月～



前田 直人  
内科医師

◇生まれたところ

兵庫県  
明石市

◇特技・趣味など  
ゴルフ  
その他広く浅く

◇自己アピール  
的確な診断と適切な活力選択はもち  
ろんですが、丁寧な説明、そして心  
のケアもきわめて大切なことと考  
えています。よろしくお願ひします。

H25年1月～



岸 真文  
神経内科医師

◇生まれたところ

鳥取県  
鳥取市

◇特技・趣味など  
サッカー  
テニス

◇自己アピール  
謙虚に頑張ります。

## 山陰労災病院外来診療予定表

(平成25年1月1～)

〒683-8605 米子市皆生新田1-8-1 Tel0859-33-8181

科別	曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科	1診	福谷 幸二(呼吸)	加藤 和宏(呼吸)	加藤 和宏(呼吸)	福谷 幸二(呼吸)	木下 直樹(呼吸)
	2診	古城 治彦(消化)	徳盛 豊(糖尿) 宮本 美香	尾崎 就一(循環)	徳盛 豊(糖尿) 宮本 美香	徳盛 豊(糖尿) 宮本 美香
	3診	岸本 幸広(肝)	神戸 貴雅(消化)	岸本 幸広(肝)	向山 智之(消化)	神戸 貴雅(消化)
	4診	遠藤 哲(循環)	足立 正光(循環)	笠原 尚(循環)	太田原 顕(循環)	水田 栄之助(循環)
	5診	中岡 明久(腎)	西向 栄治(肝)	角田 宏明(消化)	謝花 典子(消化)	西向 栄治(肝)
	6診	足立 正光 (ペースメーカー外来)	前田 直人(肝)		石田 千尋(腎) (午後)	前田 直人(肝)
神経内科	1診	林 永祥	林 永祥		林 永祥	林 永祥
	2診	岸 真文		岸 真文	岸 真文	
	3診		楠見 公義	楠見 公義		楠見 公義
心療科	1診	高須 淳司	高須 淳司	高須 淳司	兼子 幸一(大学)	山内 崇平(大学)
	2診				高須 淳司	高須 淳司
外科	1診	野坂 仁愛	豊田 暢彦	福田 健治	野坂 仁愛	山根 祥晃
	2診		大井 健太郎		豊田 暢彦	
整形外科	1診	橋口 浩一(新患)	不定(受付10時まで)	大月 健朗(新患)	不定(受付10時まで)	縄田 耕二(新患)
	2診	熊谷 達仁(新患)		小畑 哲哉(新患)		志摩 隆之(新患)
	3診	縄田 耕二(予約)	那須 吉郎(~10:00)	橋口 浩一(予約)	不定(受付10時まで)	大月 健朗(予約)
	4診	志摩 隆之(予約)	不定(受付10時まで)	金子 忠弘(予約)		小畑 哲哉
	5診	金子 忠弘		石橋 勝彦		熊谷 達仁
スポーツ外来(午後)					縄田 耕二(午後)	
脳神経外科	1診	田辺 路晴	沼田 秀治	沼田 秀治	小林 智行	田辺 路晴
心臓血管外科		休診	黒田 弘明	小野 公誉 第1・第3は 手術のため休診	黒田 弘明	不定
皮膚科		三島 エリカ	三島 エリカ	三島 エリカ	三島 エリカ	三島 エリカ
泌尿器科	1診	渡部 信之	門脇 浩幸	門脇 浩幸	予約・急患のみ	渡部 信之
	2診	門脇 浩幸	田路 澄代	渡部 信之		田路 澄代
眼科		武田 佐智子	佐々木 勇二	佐々木 勇二	武田 佐智子	佐々木 勇二
耳鼻咽喉科	1診	杉原 三郎	杉原 三郎	(大学)	門脇 敬一	杉原 三郎
	2診	門脇 敬一	木谷 修一		木谷 修一	門脇 敬一
リハビリテーション科		磯邊 康行		磯邊 康行		磯邊 康行
歯科口腔外科		高橋 啓介	高橋 啓介	高橋 啓介	高橋 啓介	高橋 啓介
放射線科		大内 泰文	井隼 孝司	井隼 孝司	井隼 孝司	井隼 孝司